

DEMからの地形主題図による関東および九州地方の地形分類

Supervised landform classification of Kanto and Kyushu regions using DEM-derived thematic map

プリマ オキディッキ [1]; 長野 雅樹 [1]; 吉田 武義 [2]

OKY DICKY ARDIANSYAH PRIMA[1]; Masaki Nagano[1]; Takeyoshi Yoshida[2]

[1] 県大・ソフト; [2] 東北大・理・地球物質

[1] Faculty of Software and Information Science, IPU; [2] Inst.Min.Petr.Econ.Geol., Tohoku Univ.

日本では、地震および火山活動に伴う災害や、国土の約7割が山地で急峻な所が多いという地形条件による土砂災害などの自然災害が多く発生している。これらにおけるハザードマップの整備は、災害に対する一つの有効な施策である。しかしながら、精度の高いハザードマップの作成は、詳細かつ高精度な地理情報の整備が不可欠である。国土地理院では、ハザードマップ作成のための基礎データとして、「土地条件図」や「火山土地条件図」などが整備されてきている。土地条件図は、一般的に「地形分類図」と呼ばれている。

現在、入手できる全国の地形分類図には、国土庁土地局国土調査課（現国土交通省土地・水資源局国土調査課）発行の500mメッシュの地形分類図、国土数値情報の1kmメッシュの地形分類図、そして若松ら(2005)による1kmメッシュの「日本の地形・地盤デジタルマップ」がある。しかし、詳細なハザードマップを作成するために、より分解能の高いものが必要である。Primaら(2006)は、デジタル標高モデルからの地形主題図を用いて、50mメッシュの東北地方の地形分類図を作成する手法を提案した。本研究では、Primaら(2006)が使用した教師データを用いて、関東および九州地方の地形分類図を作成し、既存の地形分類図との比較を行う。その結果、関東および九州地方における火山分布や山地、丘陵そして平地を正確に分類することができた。しかしながら、シラス台地と阿武隈山地において誤分類が生じた。それぞれについて前者は平地、後者は丘陵と分類された。